



東京都千代田区猿樂町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(292)1411 大代表
テレックス 222~4607
郵便番号 101
PR旬報 年4回発行

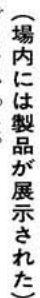
札幌市

営業・サービス活動を強化

（豊川稲荷の遷座式）

27号等が大谷地流通業務団地を
囲むように通っている。道内ど

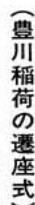
（披露パーティー風景）



(豊川稲荷の遷座式)

274号等が大谷地流通業務団地を
用ひようこ通つてゐる。首内ビ
ル

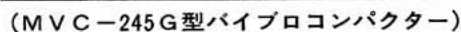
(波露バーティール風景)



(大ぜいのご来賓のみなさんに挨拶を述べる京谷社長)

それぞれの感謝状が手渡された。
大ぜいのホステスに迎えられ
TEL 〇一(八九二)六九二〇
FAX 〇一(八九二)六三四四

TEL 011 (892) 6920
FAX 011 (892) 6344



仕 様	
型式	MVC-245G〔MVC-245D〕
機体の寸法	長 1,350mm(760mm) 高 1,050mm(1,340mm) ()内はハンドルを折畳んだ状態
帳圧盤の寸法	長 700mm 幅 450mm
振動数	3,900V.P.M
速度	15~20m/min
遠心力	2,600kg
使用エンジン	空冷ガソリン ロビンEY20D 5 PS/4,000r.p.m 〔空冷ディーゼル ロビンDY30D〕 6 PS/3,000r.p.m
概重量	169kg〔197kg〕

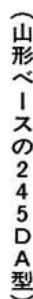
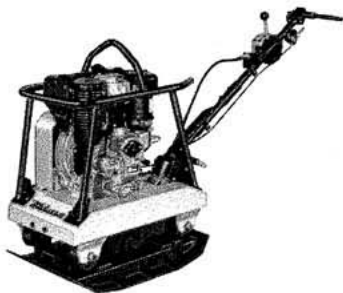
前後進自在型バイブロコンパクター

前後進自在型バイプロコンバクタ200シリーズに新機種が加わり、この新型は既に国内は勿論、海外に於いても好評をもつて迎えられている。それは輥圧盤の幅を450mmに広げたMVC2245型である。この新しいバイプロコンバクタには姉妹機MVC2240型と同様に空冷ガソリンエンジン付のG型と、空冷ディーゼルエンジンをのせたD型の二つがあり、目的に合ったものを選び頂くことができる。なお将来はデザインが一部変更され、エンジンベースが今までのフラットな形状から山形になり、MVC1135・145型等の100シリーズバイプロコンバクタと似かよった形状となり、型式記号の末尾にAがつき、MVC2245GA/DAとなる。この後、200シリーズのすべての機種に亘りこのAの記号がついた山形のエンジンベースに変更され、デザインの統一化が計画されている。

200シリーズではMVC230型と240型は管理設工事

に用いることを考え、溝のなかでの締固め作業を設計仕様に掲げて開発され、機体の全幅も狭くできている。広い場所での締固め作業には輥圧盤の左右にエクステンションプレート（補助輥圧盤）を取付け、締固め幅を拡げられるようになっていいる。これに対し今回のMVC2245型は最初から広い場所での作業をスピーディーにこなすことを目標とし、輥圧盤の幅も250

（山形ベースの245DA型）



なった。良いことづくめの空冷
 ディーゼルエンジンも、寒い冬
 場のスタートが泣きどころであ
 ったが、これからはセル一発で
 スタートができるので仕事もは
 かどると言うものである。

MFG13300DS型と称
 するこの新型高周波エンジンゼ
 ネレーターの特長は、セルスタ
 ーター付の他に燃料計付の大型
 燃料タンクが取付けられ、これ
 にはなんと15ℓの軽油を入れる
 ことができる。今までの3300
 OD型に比べ、一きよに四倍近

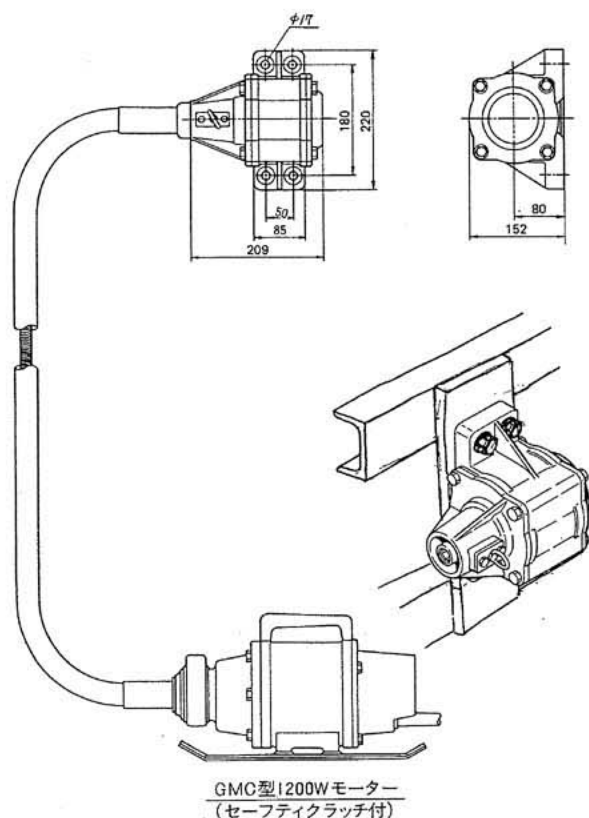


型	式	MFG	-3300DS
電	圧	48V	
出	力	3.3KVA	
電	流	40A	
周	波	240HZ	
エ	ン	ジ	ン
		空冷4サイクル	ディーゼル
		ロビン	DY35DS
		7.5PS/3600r.p.m	
バ	ッ	テ	リ
ア	ラ	グ	差
寸	込	み	口
		4	口
概	重	長 875mm	幅 507mm
	量		高 831mm
使	用	135kg (全装備)	
振	動	30型	11本
機	の	40N型	6本
本	数	50N型	4本
		60N型	2本
		70型	1本
		90型	2本
		110型	1本
		130型	1本

けでも大助りとの声も聞こえる。その他には車輪の径と幅がサイズアップされたこと等もあげることができる。

一方、高周波ゼネレーターの方はこれまた三笠独特のAVR(自動電圧調整装置)付なので、負荷の変動に強く、高周波バイブレーターをコンクリートのなかへ入れても電圧が変らないで強力な振動を発生する極めて性能の安定したものである。

優れたインヘッダーの移動電源MFG-3300DS型は既に八月上旬より発売され、ダム工事等の現場で使用されている。



GMC型1200Wモーター
(セーフティクラッチ付)

コンクリート製品を作るのに
は型枠の外側にバイブレーター
を取付けて振動を与える方法が
一般に用いられている。

新発売のMVFG600型は
常時型枠に取付けたままにして
コンクリート打設が終ればその
ままビニールシートを被せて蒸
気養生ができるので、打設終了
毎に自振モーターを取りはずし
ていた従来のものからすると工
程の短縮ができるというメリッ
トがある。

この振動装置は2850回転で
560kgの遠心力を発生する
偏心振子を内蔵している。これ
は3/4型自振モーターとほぼ同じ
性能である。

原動機としては錐振バイブレー
ター用の出力1.2kW GMC型モー
ターが専ら用いられているが、
電源の無いところではエンジン
を使うこともできるし、または

錐振型用のエアモーターで回す
ことができる。

錐振モーター(またはエンジン)
の出力軸からはフレキシブル軸
を経て動力が伝達される。振動
装置との接続はピンを落とし込む
ワンタッチ方式なので脱着は容
易である。

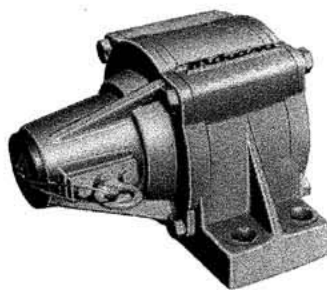
自振モーターを型枠に取付け
ているのでは、若しそのまま蒸
気養生をすると湿気と温度の影
響を受け、モーターの絶縁が悪
くなる。またMVFG600型
型の振動装置のみの重量に比べ
自振モーターの方が重いのは当
然である。取付けの際の仕事が
やり易いのは自明だからである
更には自振モーターはそれぞれ
にモーターと言う動力を持ってい
るが、MVFG600型の
ように打設作業の手順を追って
モーターとフレキシブル軸を接
続して持つて回った方がコスト

型枠に取付けたままで
養生のできる

外部バイブレーター

誕生

MVF-11G600型



仕 様	
型 式	MVF-G600型
名 称	外部バイブレーター
全 長	209mm
全 幅	220mm
全 高	152mm
重 量	14.5kg
振 動 数	2,850V.P.M
振 動 心 力	560kg
モーター	GMC型 1.2kW 3φ 200V
フレキシブル シャフトの径	13mm
ゴムホースの径	34mm
リードシャフト の 長 さ	3 m (アジャスト付)

の面から考えると有利と言えるかも知れない。しかしこの辺は使い方によつては意見の分れるところである。

MVF II G 6 0 0 型外部パイプレーターはピーエスコンクリート(株)の発案に基き開発したものであるが、既に同社に於いて実用に供し良好な成績を納めている。

発表説明会開催

今回はトップを切って、七月三日(日)、宮城県青年会館において宮城、山形両県の一線営業担当の方々を対象に、新製品を中心とした三笠製品のセルスポインント、特長、性能等についての説明会を開催したい旨御連絡申し上げたところ、早速四十数名の参加申し込みがあった。

当日は会館会議室において十時十分より十二時まで、弊社技術部の磯部部長、仙台出張所の大沢所長、技術サービス課の坂本課長が講師となり、83年度三



より詳しくご説明いたしました。ひと通りの説明の後、屋外にてご参加いただいた皆様に実物を実際に動かしていただき、その性能の良さを確かめていただきました。

最後に質問、要望等を伺い、アンケートにもご協力いただき貴重な御意見、御要望あるいは励ましの御言葉までいただきました。

当日参加された皆様には、疊い中最後まで真剣に説明を聞いていただき有り難く思っております。今後とも尚一層、三笠製品の販売等にご協力いただけるものと確信いたしております。

仙台課 和泉記



（秋田会場の模様）



かつた。日本からも数社が出品し、他国にひけをとらない技術を高揚していたのが心強かつた。

出展小間の多さと、会場の広さは、限られた三日間で全小間を視察することは容易なことではない。そこで特に関係の深い小間をガイドブックでピックアップし、それを重点的に視察し予備日を一日作って行動したが結局予備日も埋まるほどの広さである。各小間を熱心に見てまわつたらやはり一週間はかからうと思える。

各食堂も満員のため、会場のところどころに点在している売店でミュンヘン名物のビールを片手に、一方にはパンとソーセージを持ち、外人特有の大きなジュエスタチャーを混えて食べながら話す様はまるで立食パーティーを思わせる賑やかさである。

ミュンヘンと言えばビールと言われる位有名であるが、話によるとローマ人によつてもたらされ、ドイツ人によつて熟成したビールが有名になったのは

第十一回

社員海外

(シンガポール)

三笠に入社以来早くも十年が
経ち、我々同期入社の人々は、
勤続十年のお祝いに、シンガ
ポール、バンコク、ホンコンの
五泊六日の旅行をさせて頂きま
した。

九月四日(日)

一同、箱崎の東京エアシテイ
ターミナルに集合、バスで成
田へと、心はずむ旅の始まりと
なりました。

行きは香港で一休みし、飛行
機を乗り継ぎ、シンガポールへ
は夕暮れの中到着、ネオンの輝
き始めた街を抜け、ホテルへと
向いました。

九月五日(月)

朝食後、いよいよシンガポール
観光である。

まず、国花になっているラン

(シンガポール・バンコク・ホンコン)

視察旅行記

・バンコク・ホンコン

の花を栽培している植物園を訪問、熱帯の珍しい植物が一杯である。マウントフエーバーに登れば、シンガポール港や海峡をはさんで、遠くインドネシアの島々を見ることが出来る。

タイガーバームガーデンは万金膏で巨万の富を築いた故胡文虎の庭園であり、園内には、中国の伝説や格言を歩きながら見られるようになっている。

夕食後はマライオン公園、チャイナタウン、ヒンズー教寺院、ニュートンサーカスへ行く。

九月六日(火)

午前中はオーチャード通りを散策する。シンガポールの状況を示すようにビル建設が盛んであり、日本業者も多く目につく。

午後、空路バンコクへ向う、到

がハンコンを直撃しそうであるとのこと、従つて滞在中の予定は追つて知らせると聞かされた。成田出発以来新聞も読んでいない。(読めない)我々は驚かさされた。説明の通り夕方より暴風雨となり、夜の水上レストランの食事味わう暇も無く、白波の立ち始めた海上より夜景見物の為ビクトリアピークへと向つた。

風の一層強くなった中、バスの外に出ると風で体が吹き飛ばされそうな程である。市内の商店は六時前に全てシャッターを下ろし、百万ドルと言われる夜景も今夜は十万ドル以下との説明を受け、早々にホテルへと引き上げた。

九月九日(金)
ホテルの窓から外を見ると、看板や塀が倒れている。交通機関は止まり、予定されていた観光は中止となった。帰りの飛行機も飛ぶかどうか不明のまま正午過ぎまでホテル内で不安の時を過ごした。

と苦みを出すホップが南独バイエルンのガイゼンフェルトで栽培され始めてから味がよくなったと言ふことである。

バイエルンではビール法が制定され、大麦とホップと水以外には使つてはいけないことになりビールの純度が保たれていることで、我々もその恩恵を受け毎昼夜独得のソーセージとポテトを肴に明日への活力源となつた。日本のビールよりアルコル分が低く、小生のように少し飲むと真赤になる筈の顔が赤くならず食欲を旺盛にする手助けをしてくれた。

歩き疲れた見学者は、細長いスマートな場内専用バスに乗り自分の見たい小間の辺りで下車して見学するなど便利がられていた。

このように広大な展示場で、我が社の代理店であるスウェーデンのE社々長、ホンコンF社の社長、I商社の方々に偶然出会う会ひ先方から声をかけられ驚いた。世間は広いようで狭いものという諺を実感した。このような混雑した所で人を探すことは大変困難である。それができたのは、我が社の営業マンが各国に出張した折、人間対人間のつ

なかりを如何に大切にしているか、また自分自身を相手に如何に印象づけるかということの努力のたまものと評価したい。

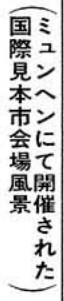
これらの代理店の方々とお互いに他国で夜を楽しみながらミートイングできたことは予測せぬ収穫であった。

ミュンヘン滞在最終日十二日に京谷会長のご逝去の報に接し心痛の中、会長のご冥福を心よりお祈りしながら十三日早朝モスクワへと向った。

松下記



国際見本市会場風景



味わいに行くが、飛行機内で昼
夕食と二回出たために皆あまり
食が進まないようであつた。
九月七日(木)
モーニングコールで起こされ
水上マリーケット観光に出発、メ
ナム河に通じる運河の両岸には
水上生活者の家が立ち並ぶ、彼
らの生活は水と切り離しては考
えられない。小舟で果物を売り
に来る人、異国情緒たつぷりで
ある。途中ワット・アルン(時
の寺院)を見学、遠くから見る
と朝日に輝き宝石で飾られてい
るかのようである。
メナム河を後にし、次はエメ
ラルド寺院である。年四回王自
らの手で衣の着せかえがなされ
純金の台座の上に安置されてい
るエメラルドの仏像を幸運にも
建物内部に入って拝することが
できた。午後からはバンコク郊
外にあるローズガーデンを訪れ
タイの風俗習慣に触れることが
できる。
九月八日(木)
早朝五時三十分に起こされ、
眠い目をこすりながら空港へ、
最後の訪問国ホンコンへと出発
しました。
空港からホテルへ向う途中、
ガイド氏の話によると今晚台風

こととなり、昼食と買物を済ませ空港へと向ったが、行く道筋には至る所で壊れた看板や倒れた樹木が風に舞っていた。我々は普段では味わえぬ経験をし、香港に別れを告げ成田へと向った。

夜九時少し過ぎに無事成田に到着、箱崎で解散した。短かいながらも各々の国により色々な生活があることを体験させてくれた六日間であった。

伊藤・浅田記



（今回の参加者右より小笠原金子、浅田、伊藤）



所在地
福島県いわき市常盤水野谷
諏訪崎十一

電話
〇二四六—四四—六四一六



いわき営業所開設

神奈川県の有力な代理店である㈱立石機械リースさん（本社横須賀市佐原一―一四―六 社長立石文夫氏）では創立十五周年並びにリース営業所新設を記念して七月二十三日（出）、二十四日（日）の二日間、メーカー各社の協賛で展示会を開催し、多大な成果を挙げられた。

初日は夜九時までのナイトー大会のとり入りも

盛大な雰囲気です。展示会の幕が上

がった。

両日ともまずまずの展示会日和に恵まれ、建設機械コーナー、木工機械コーナーでは成約が相次ぎ、カネや太鼓とともに景氣の良い三本締め音が会場内にも響きわたっていた。三笠製品もバイブレーター、ランマー、プレート、カッター等十四点の商品が次々に御成約頂きました。

立石機械リースさんは建築金物、建機販売、木工機械販売、建機のリース及び修理と幅広く商売をされ、お客様の仕事面のコンサルティングを目指し、良きアドバイザーとしても絶大なる信頼を得ており、年々三浦半島に於ける三笠製品の販売拠点として拡販に協力して頂いております。

この十五周年を期に今後益々

賑わった立石機械さんの
（展示会）



ご覧展されますことをお祈り申し上げまして筆を納めることにいたします。

東販一課 向成記

八戸支店新社屋落成

「あらゆる機械の総合技術商社」の三洋機械㈱（本社 盛岡市中央通三―四―三 社長 菊池美文氏）では、かねてより八戸市江陽二丁目八番十三号に、八戸支店の新社屋を建設中のところ、このたび目度く完成され、去る九月十六日、八戸グラントパレス「孔雀の間」にお客様、メーカー、商社百数十名を招き、新社屋落成祝賀会を盛大に催されました。

同支店は、昭和三十五年十二月に八戸市小中野の一角に営業所として開設され今日まで二十三年もの永きにわたり、輝やかしい業績を続けてこられ、本年三月に支店に昇格されました。

新築された社屋は国道45号線から少し入った所に位置し、敷地一〇〇平方米に九九平方米の軽量鉄骨二階建て一階は事務所と応接室、二階は会議室等になっております。さらに裏側には八畳の日本間があり、社員のための場にとくばりがなされています。また別棟に修理工場、倉庫を設け、サービス体制もより強化されました。

三洋機械さんは「公共福祉、社会建設への技術奉仕」を社是にされ、建設機械の販売、レンタル、修理はもとより鉱山機械、産業機械、工作機械、プレハブ住宅等さまざまな分野におかれの総合商社であり、三笠の古くからの有力代理店として活躍されております。

八戸支店の新社屋落成を機に今後更に地元ユーザーさんに、より密着した営業活動がなされる訳で我々メーカーとして大い

庭支店
と新社

第三回建機グラントフェア

前日まで降り続いていた雨もすっかりあがり、さわやかな初秋の展示会日和となった九月十七・十八の両日「建機ランドフェア」が大宮市の㈱イマギイレ建機販売センターに於いて盛大に催された。

イマギレイさんの開催になるこの展示会も今回で三回目、今年は三十四社の参加を得て、低迷する市況をよそに、ここだけは年毎に盛りあがりを見せている。ことに今年はイマギレイさんの創立十周年に当り、今給黎

社長さんにしめ社員の方々に、熱の入れようは一入である。それだけに我々としても「建機ブランドフェア」に掛ける期待は大きいものがある。

前日までに飾り付けをすませた三笠の展示小間に早くから駆け付け、お客さんの見えるのを今や遅しと待つうちに、ポツポツと場内も活気を呈して来た。陣頭指揮で各社の小間を回っているイマギイレさんの川上埼玉支店長さんの話では、昨日までの雨が止んでお天気になったので今日は現場に出掛けたのか、お客の入りが少ないとのことだが、それでも新製品のMT-50型ランマーやらMVC-145型パイプ

ロコンパクターに注目され、説明を求めるお客様はかなりの数である。なかには自らハンドルを握り運転し、その力を納得してその場で契約をなさる方もいらっしやる。

午後から夕刻にかけて尻あがりに入場者数は増え午後七時までにそのまま続く。場内中央に設けられた大きなテントのなかにはテーブルと椅子がしつらえられ、焼ソバや飲み物が用意され



東販一課関係のお得意さんへのサービスマンを対象とした技術講習会が九月十六・十七日の両日三笠産業館林工場で行なわれ、栃木、静岡、山梨、長野の各都県より第一線で活躍しているサービスマン達十八名が参加された。

この催しはこのところ矢継早やに市場にデビューした三笠の技術面での理解点検調整要領を

講師の説明に聞き入るご参加のサービスマン達



第二目、高周波パイプレータと動力源エンジンゼネレーターを分解して構造を覚え、次いでMDR-20N型ローラーの

主として技術研究所のチーフエンジニアがそれぞれ自己の担当する機種の講師をつとめ、館内工場の全面的協力と春日部工業会の応援を得て、十六日午後一時より翌十七日の正午までの予定で、密度の高い内容の講義と実習が休憩時間も惜しんで続けられた。

小林工場長の挨拶によつて講演会が始められ、スライドを使って新製品の紹介を受けた後、八人づつ三つのグループに分かれて早速実技が始まった。

パイプロコンパクターの原理と構造。MT-50型ランマーの原理と分解手順、何れも分解と組立て作業が伴う講習内容なのに見つめる目差しも真剣である。プラスチックボディのNP分解品等で構造を教えられ、一日目は終了。

宿舎では今日の疲れを癒やし、互いの親睦を深める交歓が繰り広げられた。

休憩所があるが、ここが時にあっては商談コーナーに早がわ

十八日は日曜のこととて、前日以上のお客さんが見えて、「第三回建機ランドフェア」は盛況裡に幕を閉じた。これも建機フェア実施に先立ってのイマギレさんの皆さんの根まわしが

習い MHC-10 型バンドカッターとその部品を教材にして調整要領をのみ込み漸く終了。
ヤレヤレと思う間も無く質疑応答と意見交換。さすがベテランの集まり、日頃の経験に基づく有益なご意見が次々と飛び出し、予定の時間を過ぎ、解散したのは午後一時半だった。
ご苦労さまでした。
東販一課 永山記



(講習に参加された皆様)

効を奏したのであろうことは間違いないところと思う。
この二日間で三笠の小間ではランマー、プレート、コンクリートカッター、インヘッダーをはじめ沢山の成約があったことを報告し筆を置きます。有難うございました。
東販二課 八巻記
